

令和元年度決算に係る自己評価

令和元年度病院事業決算における経常損益は946百万円の赤字で、中期計画の目標金額（経常損益 14百万円）を下回る結果となりました。

平成30年度決算と比較すると、経常損益は329百万円悪化しています。

中期計画の目標額を下回り、経常損益も平成30年度から悪化したため、自己評価としては、S～Dの5段階評価で以下のとおりとしました。

自己評価	D
------	---

【病院事業全体】

(単位：百万円)

収益的収支	R1中期計画 A	R1決算 B	差引 C=B-A	H30決算 D	差引 E=B-D	
経常収益	23,574	22,796	△ 778	22,366	430	
主な 内 訳	入院収益	13,106	12,583	△ 523	12,406	177
	(病床利用率)	(82.1%)	(78.5%)	(△3.6%)	(79.1%)	(△0.6%)
	外来収益	5,494	5,475	19	5,167	308
経常費用	23,560	23,742	182	22,983	759	
主な 内 訳	職員給与費	11,163	11,503	340	11,034	469
	材料費	5,545	5,530	15	5,181	349
	減価償却費	1,808	1,735	△ 73	2,189	△ 454
	企業債利息	302	259	△ 43	278	△ 19
経常損益	14	△ 946	△ 960	△ 617	△ 329	
特別利益	—	—	—	149	△ 149	
特別損失	1,007	—	△ 1,007	—	—	
純損益	△ 993	△ 946	47	△ 468	△ 478	

～令和元年度病院事業決算の概要～

- ・ 医業収益は、前年度と比較して4億8,900万円の増
(うち、入院収益は、前年度と比較して1億7,700万円の増、外来収益は3億800万円の増)
- ・ 医業費用は、前年度と比較して6億5,500万円の増
- ・ その結果、経常損益は3億2,900万円悪化の9億4,600万円の赤字を計上
※決算は、今後、監査委員の審査を受けた後、県議会の審議を経て認定されます。

● 病院事業合計 (単位:百万円)

【収益的収支の状況】 (病院運営にかかる経常的な収支)

	30年度	元年度	対前年度	対中期計画
経常収益①	22,366	22,796	430	△ 778
医業収益	18,878	19,367	489	△ 905
うち入院収益	12,406	12,583	177	△ 523
うち外来収益	5,167	5,475	308	△ 19
医業外収益	3,278	3,235	△ 43	161
附帯事業収益	210	194	△ 16	△ 34
うち一般会計負担金	3,891	3,879	△ 12	△ 213
経常費用②	22,983	23,742	759	182
医業費用	21,693	22,348	655	264
職員給与費	11,034	11,503	469	340
材料費	5,181	5,530	349	△ 15
経費	3,175	3,467	292	56
減価償却費	2,189	1,735	△ 454	△ 73
その他	114	113	△ 1	△ 44
医業外費用	1,083	1,202	119	△ 48
うち支払利息	278	259	△ 19	△ 43
附帯事業費用	207	192	△ 15	△ 34
経常損益 ③=①-②	△ 617	△ 946	△ 329	△ 960
特別利益④	149	-	△ 149	-
特別損失⑤	-	-	0	△ 1,007
純損益 ③-(⑤-④)	△ 468	△ 946	△ 478	47

※附帯事業収益・費用は、小児保健医療センター療育部に係るものです。

【資本的収支の状況】 (施設の整備や企業債償還にかかる収支)

	30年度	元年度	対前年度	対中期計画
収入	508	988	480	433
企業債	477	957	480	424
一般会計負担金	22	24	2	2
補助金	-	1	1	1
寄附金	-	-	0	0
諸収入	9	6	△ 3	6
支出	2,252	2,799	547	391
建設改良費	529	1,072	543	495
企業債償還金	1,723	1,727	4	△ 104
収支差引	△ 1,744	△ 1,811	△ 67	42

【キャッシュフローの状況】 (元年度)

業務活動によるキャッシュ・フロー ①	292
投資活動によるキャッシュ・フロー ②	△ 1,283
財務活動によるキャッシュ・フロー ③	△ 51
資金の増加額 ①+②+③=④	△ 1,042
資金期首残高 ⑤	4,924
資金期末残高 ④+⑤=⑥	3,882

※平成26年度の会計制度改正により、新規に記載

	30年度	元年度	対前年度
内部留保資金	3,434	2,471	△ 963

※内部留保資金:流動資産から流動負債を差し引いた経営上の運転資金

病院事業の決算は「収益的収支」と「資本的収支」の2つに分かれています。建物の建設や備品の購入時には、主に企業債を財源として資本的収支から支出された後、毎年、耐用年数に応じて収益的収支の費用(減価償却費等)に配分されます。その結果、当年度の黒字・赤字は、収益的収支の状況により判断します。

【一般会計負担金の状況】(収益的収支、資本的収支の合計額)

項目	元年度	対前年度	
1.政策医療の実施および経営基盤強化に係るもの	2,766	28	
内 訳	救急医療体制確保経費	472	26
	高度医療機器・施設整備費	454	10
	特殊看護体制経費	326	1
	建設改良経費	939	△ 14
	精神病院運営経費	209	△ 9
	基礎年金拠出金公的負担	235	11
	その他	131	3
2.保健衛生行政の実施等に係る負担金	927	△ 10	
内 訳	研究所運営経費	220	8
	リハビリテーションセンター運営経費	153	9
	保健指導部運営経費	79	△ 1
	療育部運営経費	144	△ 14
	デイケア運営経費	73	0
	その他	258	△ 12
3.知事が負担すべき人件費に係るもの	210	△ 28	
内 訳	共済組合追加費用経費	164	△ 26
	児童手当経費	46	△ 2
合計	3,903	△ 10	

地方公営企業である病院事業は、企業として経済性を発揮することにより、病院の診療収益などにより必要な経費を賄うことが原則です。
 一方で県立病院は、公共性を発揮するため、県が行う保健衛生行政への協力や、採算性の低い高度専門特殊医療を実施しています。
 こうした部分については、独立採算の原則とは別に、病院事業の設置者である知事（一般会計）において、必要な経費を負担するべきものとされています。

総合病院

【収益的収支の状況】

(単位:百万円)

	30年度	元年度	対前年度	対中期計画
経常収益	17,179	17,598	419	△ 502
医業収益	15,063	15,518	455	△ 549
うち入院収益	9,938	10,021	83	△ 390
平均診療単価(円)	62,477	63,821	1,344	△ 1,123
うち外来収益	4,175	4,527	352	38
平均診療単価(円)	20,714	22,468	1,754	1,563
医業外収益	2,116	2,080	△ 36	47
うち一般会計負担金	2,421	2,439	18	△ 129
経常費用	17,677	18,387	710	△ 315
医業費用	16,761	17,364	603	358
対診療収益比	56.6%	58.1%	1.5	1.6
職員給与費	7,987	8,455	468	448
対診療収益比	31.8%	33.4%	1.5	△ 1.2
材料費	4,494	4,855	361	△ 58
対診療収益比	16.2%	17.3%	1.2	△ 0.8
経費	2,283	2,524	241	56
対診療収益比	13.1%	9.6%	△ 3.5	0.3
減価償却費	1,843	1,395	△ 448	△ 58
その他	154	135	△ 19	△ 30
医業外費用	916	1,023	107	△ 43
うち支払利息	253	240	△ 13	△ 40
経常損益	△ 498	△ 789	△ 291	△ 817
特別利益	135	-	△ 135	0
特別損失	-	-	0	△ 1,007
純損益	△ 363	△ 789	△ 426	190

【令和元年度決算の特徴】

【前年度決算との比較】

○経常収益は227億9,600万円(+2億8,100万円)
 入院収益は総合病院の平均診療単価の上昇に伴い1億7,700万円増加し、外来収益については、総合病院の平均診療単価が上昇したことから、3億800万円増加しました。

○経常費用は237億4,200円(+7億5,900万円)
 職員給与費は職員数の増等により6億4,300万円の増、材料費は総合病院の外来化学療法件数の増による薬品費の増等により3億5,100万円の増、減価償却費は総合病院の既存新館設備の償却終了等により4億5,400万円の減となりました。

○その結果、経常損益は9億4,600万円の赤字
 経常損益、純損益ともに、医業費用(職員給与費、材料補)の増により、9億4,600万円の赤字となった。

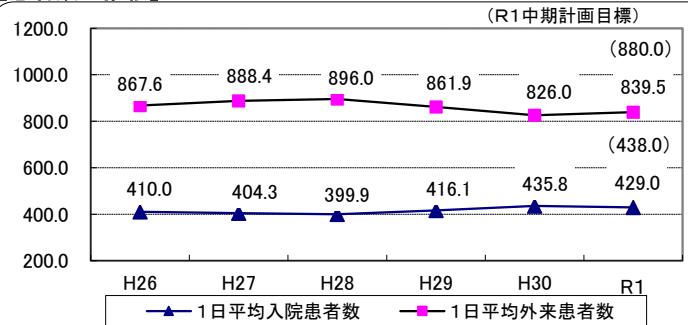
【中期計画との比較】

○経常収益は7億7,800万円下回る
 入院収益や外来収益が、中期計画の目標値を下回りました。

○経常費用は1億8,200万円上回る
 職員給与費や経費の増加などにより増となりました。

○その結果、経常損益は計画を9億6,000万円下回る
 経常損益は赤字となり、中期計画の目標値を下回りました。
 総合病院において、目標とする収益を達成できなかったため、費用の増加が収益の増加を上回ったこと等により経常損益が悪化したことが主たる要因となります。

【患者数の推移】



【患者数：入院・外来とも前年を下回る】

○入院患者数は入院基本料の施設基準である重症患者割合維持のため早期退院を進めたこと等により、前年を下回り、外来患者数についても減少となりました。また、病床利用率は前年度を1.3ポイント下回り80.2%となりました。

【経常収益：医業収益の増加】

○診療収益は、入院、外来とも増加し、合計145億4,700万円(対前年度比+4億3,400万円)となりました。
 ○一般会計負担金は24億3,900万円(対前年度比+1,800万円)となりました。

【経常費用：看護師数の増に伴う職員給与費の増等により前年を上回る】

○経常費用は、183億8,700万円(対前年度比+7億1,000万円)となりました。

【経常損益：5年連続の赤字】

○経常損益は7億8,900万円の赤字で前年度比2億9,100万円悪化しました。

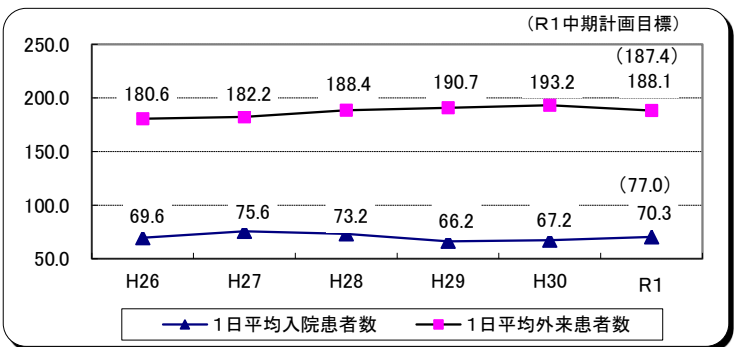
小児保健医療センター

【収益的収支の状況】

(単位:百万円)

	30年度	元年度	対前年度	対中期計画
経常収益	3,096	3,095	△ 1	△ 118
医業収益	2,424	2,459	35	△ 121
うち入院収益	1,510	1,590	80	△ 39
平均診療単価(円)	61,615	61,805	190	4,013
うち外来収益	773	736	△ 37	△ 25
平均診療単価(円)	16,392	16,298	△ 94	△ 347
医業外収益	462	442	△ 20	37
附帯事業収益	210	194	△ 16	△ 34
うち一般会計負担金	691	673	△ 18	△ 36
経常費用	3,244	3,253	9	3
医業費用	2,934	2,946	12	34
対診療収益比	68.4%	67.1%	△ 1.4	△ 3.1
職員給与費	1,562	1,560	△ 2	△ 76
対診療収益比	25.5%	24.3%	△ 1.2	3.9
材料費	582	566	△ 16	61
対診療収益比	25.1%	26.2%	1.0	1.1
経費	574	609	35	58
対診療収益比	7.4%	7.1%	△ 0.4	△ 0.4
減価償却費	170	164	△ 6	△ 13
その他	46	47	1	4
医業外費用	103	115	12	3
うち支払利息	3	3	0	△ 2
附帯事業費用	207	192	△ 15	△ 34
経常損益	△ 148	△ 158	△ 10	△ 121
特別利益	8	-	△ 8	0
特別損失	-	-	0	0
純損益	△ 140	△ 158	△ 18	△ 121

【患者数の推移】



【患者数：入院は前年上回り、外来は前年を下回る】

○入院患者数は25,732人(対前年度比+1,221人)、病床利用率は70.3%、外来患者数は45,133人(対前年度比△2,019人)となりました。

【経常収益：医業収益は対前年度を上回る】

○診療収益は23億2,600万円と対前年度比4,300万円増となりました。

○一般会計負担金は6億7,300万円で、対前年度比1,800万円減となりました。

【経常費用：経費の増等により前年を上回る】

○経常費用は、32億5,300万円(対前年度比+900万円)となりました。

【経常損益：赤字が拡大】

○経常損益は1億5,800万円の赤字で前年度比1,000万円悪化しました。

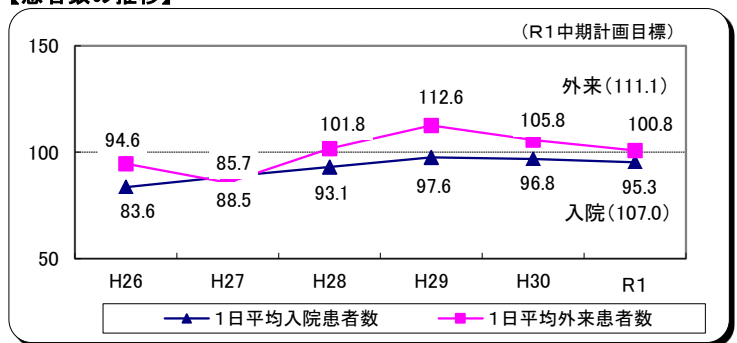
精神医療センター

【収益的収支の状況】

(単位:百万円)

	30年度	元年度	対前年度	対中期計画
経常収益	1,999	2,018	19	△ 100
医業収益	1,302	1,307	5	△ 200
うち入院収益	957	972	15	△ 94
平均診療単価(円)	27,114	27,841	727	626
うち外来収益	220	212	△ 8	△ 32
平均診療単価(円)	8,510	8,776	266	△ 212
医業外収益	697	711	14	100
うち一般会計負担金	689	684	△ 5	△ 13
経常費用	1,970	2,017	47	△ 77
医業費用	1,907	1,954	47	△ 73
対診療収益比	110.2%	112.0%	1.8	8.0
職員給与費	1,297	1,326	29	△ 13
対診療収益比	8.9%	9.2%	0.3	△ 0.8
材料費	105	109	4	△ 18
対診療収益比	25.9%	27.2%	1.3	△ 0.9
経費	305	322	17	△ 27
対診療収益比	15.0%	14.9%	△ 0.1	1.6
減価償却費	176	176	0	△ 2
その他	24	21	△ 3	△ 13
医業外費用	63	63	0	△ 4
うち支払利息	21	16	△ 5	△ 1
経常損益	29	1	△ 28	△ 23
特別利益	6	-	△ 6	0
特別損失	-	-	0	0
純損益	35	1	△ 34	△ 23

【患者数の推移】



【患者数：入院、外来とも前年を下回る】

○入院患者は34,897人(対前年度比△424人)、病床利用率は77.5%、外来患者数は24,198人(対前年度比△1,624人)となりました。

【経常収益：入院単価の増により前年度を上回る】

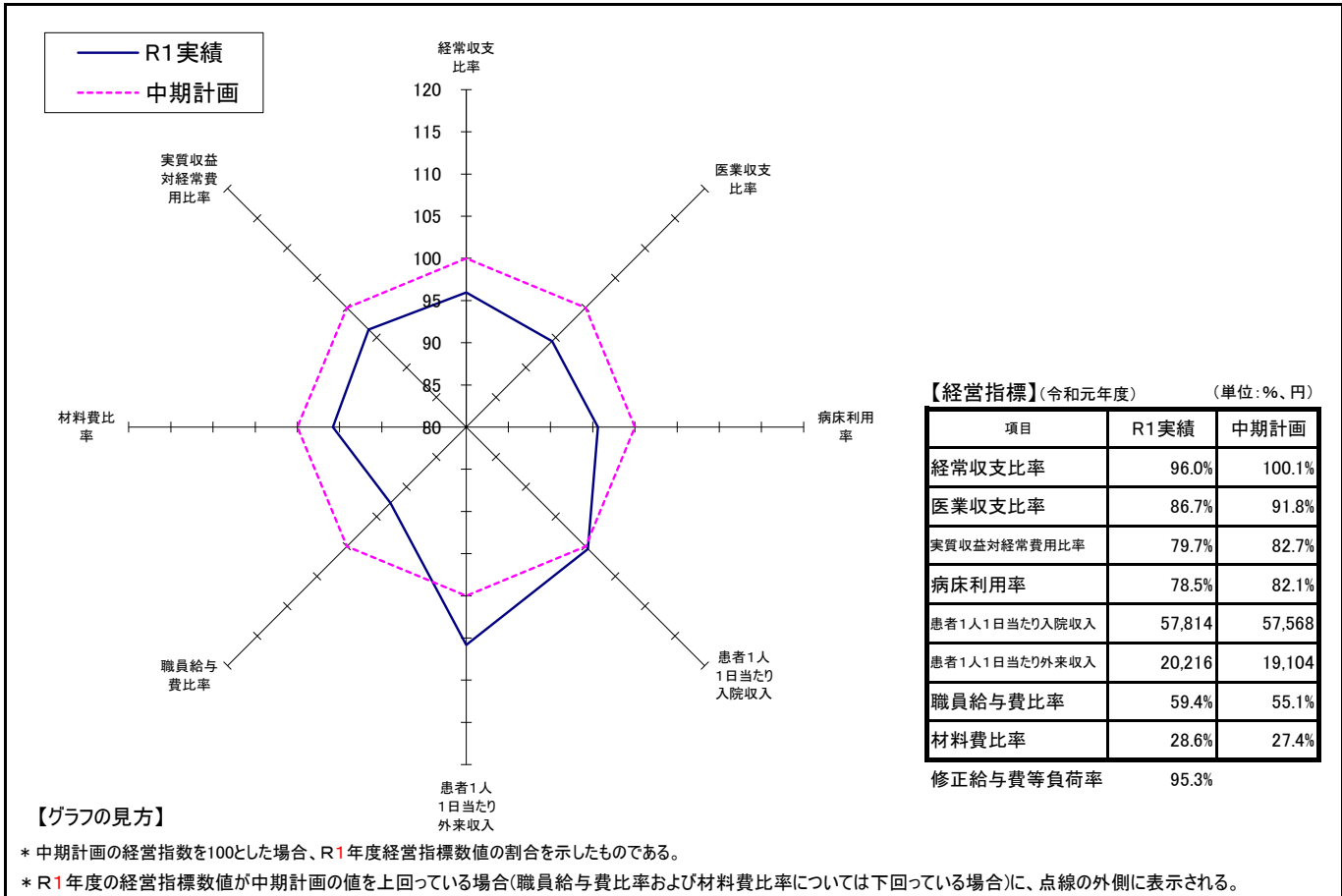
○診療収益は、入院患者数、外来患者数は減少したものの、入院単価の増により11億8,400万円(対前年度比+600万円)となりました。

【経常費用：経費の増等により前年を上回る】

○経常費用は、20億1,700万円(対前年度比+4,700万円)となりました。

【経常損益：黒字決算】

○経常損益は100万円の黒字で、前年度に引き続き黒字を達成しました。



【収支構造】

○経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上であることが望ましい。

○医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上であることが望ましい。

○実質収益対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}) \div \text{経常費用} \times 100$

経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上であることが望ましい。

【収入構造】

○病床利用率 $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と患者1人当たりの収入という質的な要素が重要になる。

【費用構造】

○職員給与と費比率(職員給与と費対医業収益比率) $\text{職員給与と費} \div \text{医業収益} \times 100$

病院において職員給与と費は最も大きなウェイトを占める医業費用。職員給与と費をいかに適切なものとするかが行院経営の重要なポイントとなる。

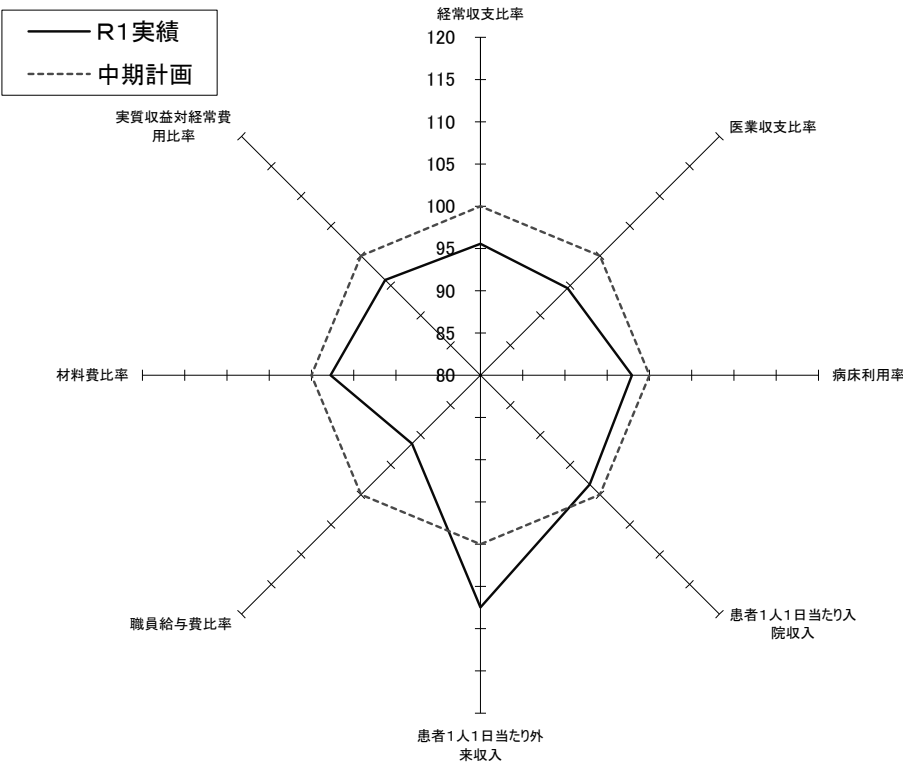
○材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$

医業費用で職員給与と費に次いで大きなウェイトを占めるのが材料費。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要がある。

○修正給与と費等負荷率 $(\text{給与と費} + \text{委託費}) \div (\text{医業収益} - \text{材料費}) \times 100$

【総合病院】

主要指標の中期計画との比較



【施設および業務状況等】

指定病院の状況	救急告示病院、臨床研修病院、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院	
看護配置	7:1	
病床数	一般	535
	療養	0
	結核	0
	精神	0
	感染	0
合計	535	
平均在院日数	14.5日	

【グラフの見方】

* 中期計画の経営指数を100とした場合、R1年度経営指標数値の割合を示したものである。

* R1年度の経営指標数値が中期計画の値を上回っている場合(職員給与費比率および材料費比率については下回っている場合に)、点線の外側に表示される。

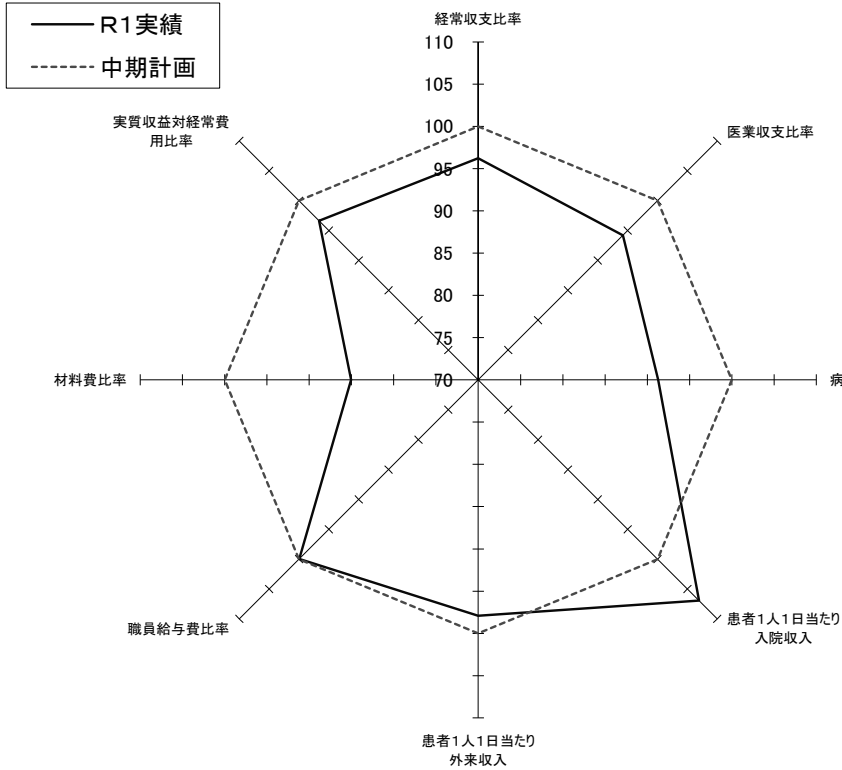
※参考: 公立類似病院(H30黒字平均[12病院])との比較

(単位: %、円)

項目	R1実績 (再掲)	黒字病院 平均
経常収支比率	95.7%	102.4%
医業収支比率	89.4%	94.4%
実質収益対経常費用比率	82.4%	92.1%
病床利用率	80.2%	81.8%
職員給与費比率	54.5%	49.2%
材料費比率	31.3%	32.4%

【小児保健医療センター】

主要指標の中期計画との比較



【施設および業務状況等】

指定病院の状況	臨床研修病院	
看護配置	7:1	
病床数	一般	100
	療養	0
	結核	0
	精神	0
	感染	0
	合計	100
平均在院日数	9.5	

【経営指標】(令和元年度) (単位: %、円)

項目	R1実績	中期計画
経常収支比率	95.1%	98.9%
医業収支比率	83.5%	88.6%
実質収益対経常費用比率	74.5%	77.0%
病床利用率	70.3%	77.0%
患者1人1日当たり入院収入	61,805	57,792
患者1人1日当たり外来収入	16,298	16,645
職員給与費比率	63.4%	63.4%
材料費比率	23.0%	19.6%
修正給与費等負荷率	95.2%	

【グラフの見方】

* 中期計画の経営指数を100とした場合、R1年度経営指標数値の割合を示したものである。

* R1年度の経営指標数値が中期計画の値を上回っている場合(職員給与費比率および材料費比率については下回っている場合に)、点線の外側に表示される。

※参考: 公立類似病院(H30黒字平均[4病院])との比較

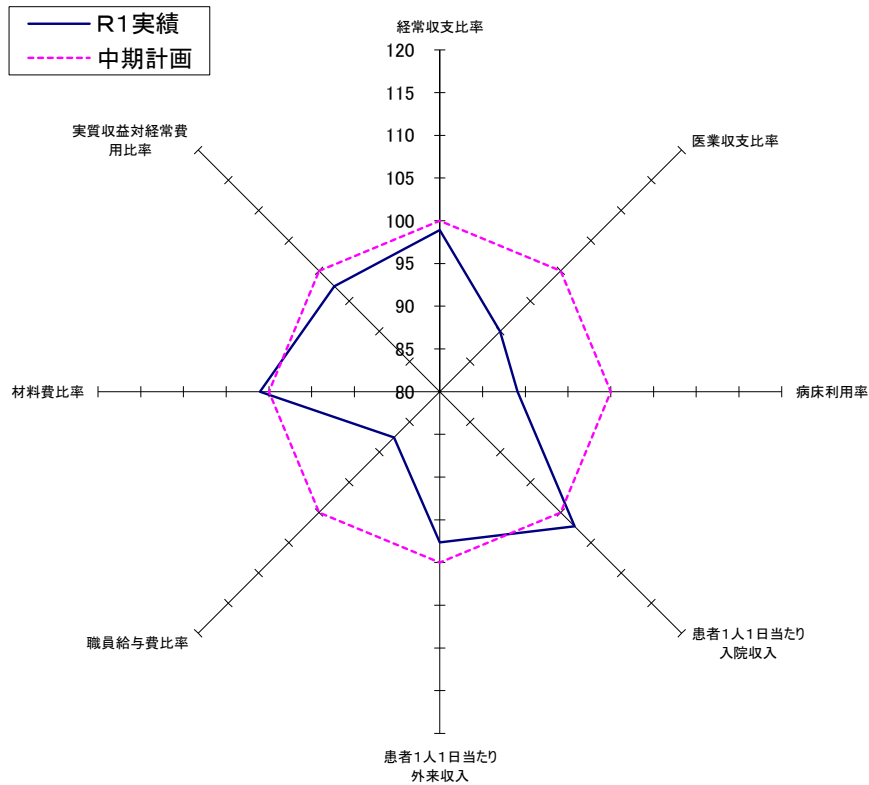
(単位: %、円)

項目	R1実績 (再掲)	黒字病院 平均
経常収支比率	95.1%	104.7%
医業収支比率	83.5%	65.0%
実質収益対経常費用比率	74.5%	69.5%
病床利用率	70.3%	74.1%
職員給与費比率	63.4%	78.1%
材料費比率	23.0%	9.9%

(類似病院全体: 23.1%)

【精神医療センター】

主要指標の中期計画との比較



【施設および業務状況等】

指定病院の状況	臨床研修病院	
看護配置	13:1	
病床数	一般	0
	療養	0
	結核	0
	精神	123
	感染	0
合計	123	
平均在院日数	107	

【経営指標】(令和元年度) (単位: %, 円)

項目	R1実績	中期計画
経常収支比率	100.0%	101.1%
医業収支比率	66.9%	74.3%
実質収益対経常費用比率	66.1%	67.9%
病床利用率	77.5%	87.0%
患者1人1日当たり入院収入	27,841	27,215
患者1人1日当たり外来収入	8,776	8,988
職員給与費比率	101.5%	88.9%
材料費比率	8.3%	8.4%
修正給与費等負荷率	127.6%	

【グラフの見方】

* 中期計画の経営指数を100とした場合、R1年度経営指標数値の割合を示したものである。

* R1年度の経営指標数値が中期計画の値を上回っている場合(職員給与費比率および材料費比率については下回っている場合)に、点線の外側に表示される。

※参考: 公立類似病院(H30黒字平均[8病院])との比較

項目	R1実績 (再掲)	黒字病院 平均
経常収支比率	100.0%	105.1%
医業収支比率	66.9%	65.6%
実質収益対経常費用比率	66.1%	68.8%
病床利用率	77.5%	72.0%
職員給与費比率	101.5%	106.2%
材料費比率	8.3%	11.9%